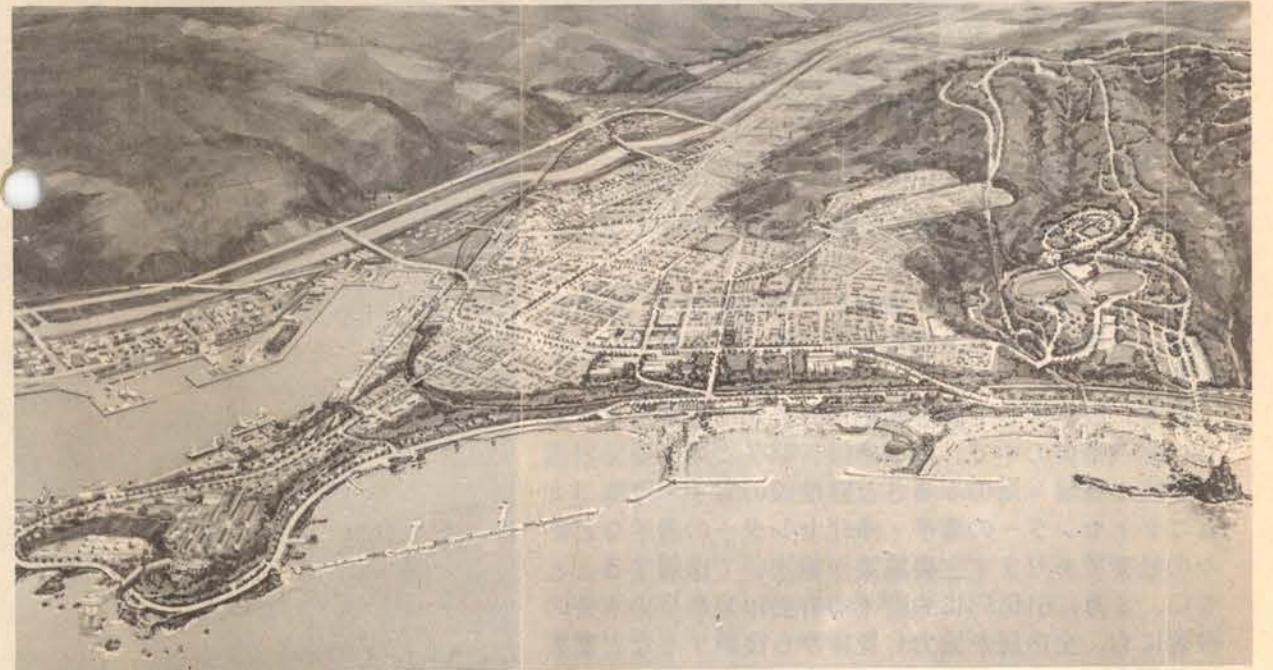


ゴールデンビーチリゾート  
**GOLDEN BEACH RESORT**

留萌海岸コースタル・コミュニティ・ゾーン整備構想

黄金色に輝く海辺の総合保養地

'88



留萌海岸は、旭川・深川・滝川方面の海を持たない（人口約70万人を擁する）内陸地域の人々が気軽に楽しめる海浜レクリエーション地であり、また、暑寒別道立自然公園、利尻礼文サロベツ国立公園を結ぶ北海道西海岸北部の海浜型広域観光ルート「日本海オロロンライン」の拠点としても重要な役割を果たしています。

今後は、余暇時間の増大や観光・レクリエーション活動の多様化に加え、国土開発幹線道路や国道231号の整備などから地域や内陸地域の交流が更に充実すると考えられ、留萌海岸に対する観光・レクリエーション需要も益々高まると予想されます。

以上の点から留萌海岸は、より気軽により快適で安全に楽しむことができる海浜地を目指し、広域観光ルートの魅力ある拠点として整備をする必要があると考え、留萌海岸コースタル・コミュニティ・ゾーン整備構想を作りました。

整備のイメージは、留萌の自然特性として有名な「黄金色に輝く波・太陽・砂浜」を象徴した特色ある「ゴールデン・ビーチ・リゾート」の形成を目指しています。

■ 構想の考え方 ■

美しい海と背後の豊かな森林を最大限に生かしながら、若者やファミリーが気軽に訪れ、さまざまな観光・レクリエーション活動が楽しめる「海辺の総合保養地」づくりをめざします。

- 長い海岸線を活用し、「海と遊び」「海から学び」「海の幸や体験を楽しむ」ことのできる海浜地「ゴールデン・ビーチ・ゾーン」を整備します。
- 海を望む豊かな森林の中で、「アウトドアスポーツや冒険」を体験し、「散策や創作などからリフレッシュ」し「質の高いアウトドアライフ」を楽しめる地区「ゴールデン・フォレスト・ゾーン」を整備します。
- 各種観光サービスやショッピング、四季の味覚が楽しめる商店街など、留萌の特性を生かした質の高いサービス機能を提供する「都市商業地区」の整備を推進します。

ゴールデン・シーサイド・ゾーン

海浜地は、海水浴を主体とし、各種水遊びや磯遊びおよびビーチレクリエーションが楽しめるマリンスポーツエリアとポートセーリングやヨットなどのマリンスポーツを見たり、参加・習得できるマリンスポーツエリアおよび、フィッシングや海の幸を楽しんだり、生産・加工などを体験できるフィッシングエリア、黄金岬の海の生態や科学および歴史を学ぶ、親しむことのできる黄金岬エリアの大きく4つの地区で構成されます。

マリンスポーツエリア

浜中地区を中心とした礼受港から西海岸線道路分岐点までの延長約1.5キロメートルの海浜地を対象とし、離岸堤を設置し、人工養浜や人口磯の創出を図るとともに背後地の整備を行います。

浜中地区をシンボルセンターとして位置づけ、水と光をテーマとした「シンボル広場」などの設置が考えられます。

シンボルセンターに隣接した海浜をウォーターパークとして位置づけ、人工磯を整備し、カニや小魚獲りおよび潮干狩などの楽しめる「磯場公園」として整備をします。また、磯場公園に隣接して、子供や

家族連れが安心して楽しめるような「海の遊園地」の整備を行います。

オタルマセタベツ河口周辺をゴールデンビーチとして位置づけ十分な海浜砂場を育成するとともに「海水浴場」の整備を行います。また、日光浴やカフェテラスおよび談話の場となる「サンデッキ」やシャワーや水洗便所および更衣室などの整備された海の家となる「ビーチハウス」の整備を行います。

その他、礼受港を「遊魚船乗場」「フィッシングセンター」「海釣り公園」として、セタベツ川を、「溪流公園」として位置づけ、溪流散歩道や釣り堀および人工滝など、また、オタルマセタベツ川は

マリンスポーツエリア

「せせらぎ公園」としての色々な整備手法が考えられます。

西海岸線道路分岐点から旧ヘルスセンター周辺までの約1キロメートルの海浜地を対象とし、離岸堤を設置し、人工養浜や静穏海域の創出を図るとともに背後地の整備を行います。

静穏海域と背後海浜地はマリンスポーツパークとして位置づけ、ポートセーリング、小型ヨット、水上スキーなどの「マリンスポーツを楽しむ水域」を確保するとともに、「各種イベントの水域」として利用します。また、背後地には「大規模駐車場」「海浜緑地」の整備を行います。

旧ヘルスセンター周辺はマリンスポーツとして位置づけ、

フィッシングエリア

旧ヘルスセンターから黄金岬までの約1キロメートルの海浜地を、離岸堤などの設置により静穏海域の創出が考えられます。

静穏海域をマリンスポーツファームとして位置づけ、主に「増養殖場」として活用するとともに「フィッシングデッキ」の整備などにより、ダイナミックな海釣りを体験できる地区と想定しています。

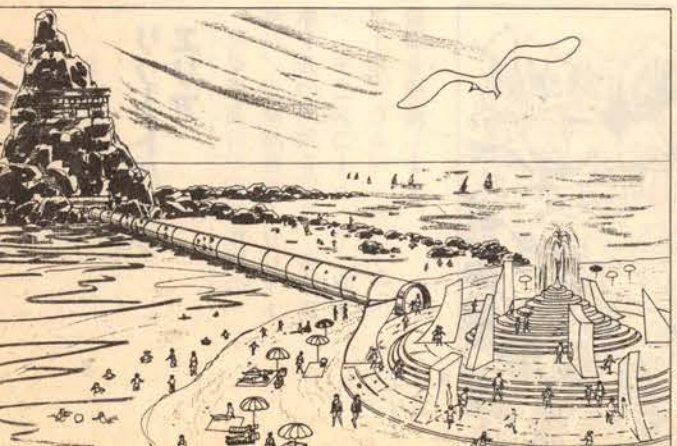
水産加工場が集積している海浜地は、マリンスポーツファクトリーとして、「観光工場や土産店」「水上レストラン」の整備を推進し、「漁師の生活」を体験できる場として位置づけられ、民間の進出が考えられます。

黄金岬エリア

岩場からなる海浜地を海浜公園として位置づけ、既存施設の拡充整備を図るとともに、岩場を散策しながら海の生態などを観察・学習できる「海

上遊歩道」や「グラスデッキ」を想定しています。

海浜地背後の丘陵地をゴールデンヒルズとして位置づけ、海の文化や歴史を楽しむながら食事や買物の楽しめる「海の家」を整備するとともに、海浜地に短絡する「遊歩道」を整備します。また、広陵地のがけ地は、はまなすやひまわりなどの四季の花を楽しめる「フラワーヒルズ」として整備するとともに、がけ地の整備にあわせて、気軽に宿泊できる小規模な「キャンプ場」を整備します。



◀シンボル広場と人工島